

(1) 単元名：「WHAT'S THIS」

(2) 本時の目標： ある物が「何か」とたずねたり、答えたりする。

稲田小学校5年英語活動の授業である。いつもながらの私の勝手な訪問に先生方が快く受け入れてくれた。感謝に尽きます。

校舎の入り口に「学校公開週間」という看板が目が止まった。「週間？」校長先生に話を伺うと、今週は授業参観日が設定されているが、当日に來れない保護者等に、「今週だったらいつ来てでもいいですよ。」ということらしい。本日、私も2～6年の教室を3時間視察させていただきました。

最近よく聴かれる質問がある。「宮城先生、英語活動はテンション下げたらできないですね？」私も即答する。「英語活動は活動である。しっとり学び合うは、ペアやグループで協同的で活動的な対話の中にしっとり感の授業をイメージしてください。」本時の授業がまさにいい例である。



【子どもは教師の鏡】

この教室に入ってまず、驚かされたのは、子ども達の笑顔である。さらに授業を観ていると子ども達の笑顔は、教師の笑顔の反射であることに気づかされた。なんといっても教師の「子ども達と楽しく授業をやっていきたい。」という思いが授業者の言葉や、表情、仕草からありありとみられた。子ども達の先生大好き、安心しきった「笑顔」である。ふざけた笑いではない、教師の思いにこたえる屈託のないほんとに素朴な笑顔である。



11:30 授業開始英語の歌の karaoke に合わせて発音する。



おもしろい！元気である。みんなでやるから分からない子ども何とかみんなについている。さらに良かったのが、初めは歌詞の入ったカラオケに合わせて歌っていたが最後は歌詞なしのカラオケで歌った。なんと、一番みんなの音がそろって、元気がありました。やっぱり難しい課題が子ども達のやる気をそそのかな？カラオケによる授業導入は、英語活動の授業へのテンションの切り替えにかなり有効性を感じた。

最近、英語活動におけるALTの指導技術と、教師のALTの活用の仕方が確実に向上してきている。英語活動が小学校の教室に下ろされた頃は、まさか小学校で「英語」と教師達も不安であった。しかし不思議なことに日本の教師たちの質の高さであろうか、現在は、どこの学校に行っても、実に違和感なく、楽しく授業が営まれている。日本の教師の質は世界に誇れるのではないだろうか。



11:56 ペアで教室の「物」について「きき合う」 実に楽しい活動である。



授業者は、ペアで教室の「物」を使って、互いに「きき合う活動」にした。ほんとに楽しそうである。思わぬ質問と教師の行為があった。「赤白帽子は、ハットかキャップか？」教師はまず、教室の仲間にこの質問をつないだ。「だれか知っている人はいない？」、何名かの子どもが適当な理由づけで「勘」で答える。しかしはっきりしない。そのあと授業者は仕方なさそうな顔でALTにつないで確認した。このさりげない行為が「仲間を信じる・仲間につなぐ・仲間で支える。」になるのです。授業終末の感想で女の子が発言した「いつも居る教室だけど、意外と英語で知っている「物」があることに気づきました。」素晴らしい！「知っていた」ことを知る。「自分は知っていなかった。」ことを知る。いろんな「学び」がありますね。

N先生、ありがとうございました。ほんとに素敵な笑顔の子ども達です。先生の創りたい学級になっているのではないのでしょうか。子ども達の笑顔は間違いなく教師の思いを、教師に反射させている光景だと思えます。またいつか、教科学習の「学び」の姿を見せてください。 国頭学びの会ゆい

- (1) 単元名：対角線と四角形
 (2) 本時の目標：交わる対角線の性質を調べよう。

【2枚の写真】この2枚の写真から、この教室の中にある、どんな子ども達がイメージできますか？



授業者は初任者である。前回の学校訪問から、ぜひ授業が見てみたいと私が勝手に気にかけていた教師である。私の予想は的中した。私が気にかけていたのは、実は授業者は日ごろから、実にしっとりした言葉で話すので、きっと子ども達も「しっとり学び合う」素敵な授業ができていのではないかと気にかけていたのである。

上の2枚の写真からもイメージできるように、しっかり、しっとりほんとはぼそぼそ「学び合う」教室である。子ども達の、休み時間とは全く違う顔を見せてもらいました。モデルにしたい教室です。

【課題】：ひし形の対角線の特徴と平行四辺形の対角線の特徴をしらべる。

授業者は、2つの四角形の対角線の特徴を各グループで「分からないところは訊き合ってね」と促し、グループで協同作業（発表用のプリント作成）とした。以下写真のとおりである。



じつにぼそぼそである。すべてのグループ、一人残さず全員が「分かりたい」に向かっている風景である。

【共有する】「調べた対角線の特徴は・・・」



写真①



発表者は、グループ代表2名である。投影機を使ってデジタルTVに投影し、伝える。それにしても、写真①、子ども達の眼を見てほしい

「聴き合う」眼である。さらに教師のポジショニングである。

語られた教師の言葉を抜粋する

- こんな発見があったよ。
- 付け足しがあたらつけたしてね。
- さっきのグループと同じところある？

グループで調べている時、一人の女の子が、前時に使った資料を見に来た。どうやら平行四辺形についてなんかあったらしい。テキストに勝手につながる。



対角線の定義を教科書を音読し確認。ジャンプ課題の提供、ここから、さらにすごいぼそぼそ学び合いが加速する。(右写真)



写真②



写真③



写真④



写真②：夢中になり身を乗り出して聴き合っている。幸せな男の子です。
 写真③：仲間の寄り添うである。どちらが訊いているかはわかりません。
 写真④：難しい問題だから夢中になる必然性が生まれます。簡単じゃないから「訊き」合わないと解決できません。

◎ 学び合っている姿に全く違和感がない。くっつき具合が最高である。

Y先生、ありがとうございました。素晴らしい教室です。素敵な仲間達です。教室に入った瞬間にしっとり感を感じました。それは、教師のテンションと言葉を、子ども達がどう受け入れてくれているかでおよそわかります。しかし私としてうれしい！私の予想とイメージが的中した。これからも、子ども達と静かに淡々と「支え合い、学び合う」教室、授業づくりに浸ってください。素敵な授業ありがとう。国頭学びの会ゆい

(1) 学習課題：複雑な立体の体積を求めよ。

【単元テストの振り返り】 授業者は、単元テストの正答率の一番低かった問題をみんなと確認する。

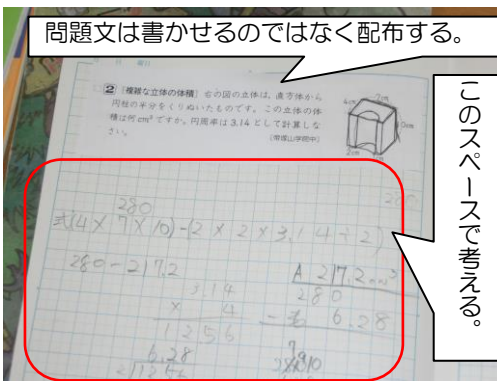


体積の問題である。授業者は、はじめに今回のテストで正答率の低かった問題を、みんなとフィードバックした。右の写真は、教師の説明に聴き入る子ども達である。授業はいつものように淡々と進められる。



授業者は、この後練習問題を2問準備した。かなりレベルの高い問題である。しかし、その難しさが「学び合う」を創るのである。

10:46 新たな課題を配布、グループでやる。小切りにされた問題を糊でノートページの上に貼り付ける。



問題文は書かせるのではなく配布する。

このスペースで考える。

これだけでも問題を書き写すという作業が省かれ、「学び合い」の時間が確保される。配布されたプリントをノートに貼ったら、2

～3分はだいたい自分でやってみたがる。少しの沈黙の時間が発生する。しばらくすると右の写真の状態になる。互いのノートをグループの中央に寄せ合い「訊き合う」である。授業者は学び合いに入れない子へのケアであるが、この教室ではケアを要する子が全く見あたらない。



11:05 2問目、ジャンプ課題の提供。「待ってました。」と子ども達が飛びつく。かなり難しい！



この写真のシーンは特別ではありません。この学級では毎度の毎時間の風景です。なんととってもこのクラスの素晴らしさは、「分からない子」の表情がいいことと、躓く子は遠慮なく「訊く」ことである。さらに、仲間を支える仲間の存在である。まさに『一人残らずである。』 教師の活躍は最小限になる。

【共有の前にも黒板前で学び合う】

自分たちの解答と他グループとの解答を見比べて聴き合っている。左の子はグループで一番分からなかった子が代表として出てくれた。嬉しそうに周りの仲間に訊きながら書いていた。



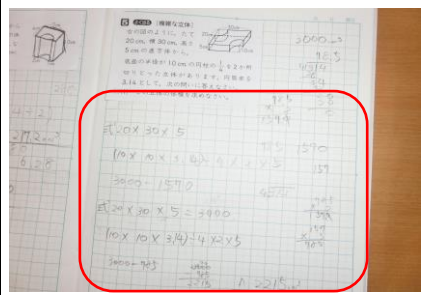
【幸せな男の子】

算数が苦手な子は、どこにでもいるが、ここでも同じである。しかし、この子は「分からない」けど幸せなんです。必ず誰かが気にかけて声をかけてくれるんです。



【ノートの使い方(例)】

今日のような授業では、学びの時間がつくれる、このようなノートの使い方をお勧めしたい。学びや、もがき、躓きの跡が見える。



T先生、ありがとうございます。この教室の子ども達を覗いていると癒されますね。教師は淡々と静かに、子ども達はしっかりと支え合う。分からない子の表情、訊いている時の表情、教えている子の表情、どのシーンを見ても私を癒してくれます。この風景を見たらきっと保護者でも「安心」できるものではないでしょうか。ほんとに、すてきな癒しの授業に感謝と敬意を表します。 国頭学びの会ゆい